

令和5年10月17日

職員各位

市長

令和6年度予算編成における基本的な考え方

私が市長に就任してから、間もなく2年を迎えようとしています。この間、新型コロナウイルス感染症への対応、ロシアのウクライナ侵攻に端を発したエネルギー価格の高騰及び円安の進行に伴う物価上昇への対策、さらには、牛久沼の越水被害の発生など、市政運営を取り巻く環境は非常に厳しいものとなりました。

また、人口の減少は着実に進んでおり、令和5年4月1日の人口は、前年同日と比べ319人減少しました。75歳以上の753人の増加に対して、20歳以下は332人の減少と少子高齢化が浮き彫りとなるほか、生産年齢人口も251人減少しており税収への影響が懸念される状況です。

このようななか、令和6年度の予算編成が始まります。令和5年1月に市のまちづくりの基本方針を示す最上位計画「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」を策定し、将来に向けた本市のあるべき姿の実現に向け、様々な行政課題を打破していくために推進すべき事業をアクションプランに位置付けました。令和6年度は、物価の高止まりで厳しい経済情勢を念頭に、市民に最も近い基礎自治体として、しっかりと役割を果たしつつ、令和5年度にスタートしたアクションプランに位置付ける主要事業を軌道に乗せるとともに、目標達成のために充実を図るべき事業を推進します。中でも、特に重要となる「未来創造プロジェクト」「魅力創造プロジェクト」「幸せ創造プロジェクト」の3つのリーディングプロジェクトは、重点的かつ優先的に取り組むこととします。

建設事業は、新保健福祉施設が完成年度を迎えるほか、長山地区小中一貫校の建設や、森林公園リニューアルなどの大型事業に着手します。さらに、公共施設やインフラの老朽化対策にも並行して取り組みます。

これらの事業を進めるうえで、財源の確保は最大の課題です。柔軟な発想や創意工夫により、新たな財源の確保に取り組むとともに、既存の事務事業を再検証し、必要に応じて見直しを進めます。

市政に関し、最終的に決断し、責任を負うのは私自身です。予算編成にあたっては、変化を恐れず各部等の長を中心に、職員ひとりひとりが経営意識を持ち、龍ヶ崎市の未来を思い描きながら進めてください。皆さんの思いが詰まった予算となることを期待しています。

最後に、市民福祉の向上のため、日々の業務に邁進されている職員の皆さんに敬意を表します。

健康に十分留意され、ご活躍いただけるよう祈念いたします。